

その名に導かれた運命
より輝く「光」を求めて

マイナーだった「サッカー」を一躍人気スポーツにした漫画「キャプテン翼」の主人公・大空翼。その名に一番輝いてほしいという願いを込めた「光」を冠して「光翼」と名付けられた田吹さん。自身もサッカーに打ち込んだ父・紀文さんのすすめで参加した「金田少年サッカークラブ」の練習がサッカーとの出会いでした。「最初は気が進まなかったけど、初めてボールを蹴って、追った瞬間、一気に魅了された」と当時を振り返ります。

小4の頃には、小6の選手と一緒に試合に出場するなど徐々に頭角を現し、次第に田



↑前列左から3番目が田吹さん(背番号14)。小4では「九州ジュニアサッカー(U-12)大会」でクラブ念願の県大会初出場を成し遂げた。

吹さんは、プロサッカー選手を目指すようになります。中学では「もっと高いレベルでサッカーがしたい」と筑豊の名門「川崎FC(川崎町)」に入団。仲間と切磋琢磨しながら3年間、技術を磨きます。その実力を認められ、「福岡4強」と例えられる強豪校「九州国際大学付属高等学校」へ特待枠で進学。さらなる高みを目指す挑戦が幕を開けたのです。

「九州国際大学付属高等学校サッカー部3年」

田吹光翼

弱いからこそ謙虚に
夢舞台への切符争う

県内外の精鋭90人ほどが在籍する「九国大付属サッカー部」。その上位30人で構成される「トップチーム」入りを目指し、壮絶な日々が始まります。「朝6時に家を出て自主練習、授業後に部活、帰宅は夜22時ごろ。休みはなく遊ぶ時間はありません」と田吹さん。「夢の実現には必要な道」と練習に励みますが、思う結果が出せない日々が続きました。監督やコーチからは「この世代が史上最弱。だから謙虚にひたむきにサッカーに向き合え」と教えられた部員たち。現状に



↑県高等学校サッカー新人大会でゴールした喜びを仲間と分かち合う。

満足せず、技術を磨き続けました。その努力が実を結び、田吹さんは高2で念願のトップチーム入りを果たし、冬にはレギュラーを獲得。九国大付属の代表で出場した「新人戦」では田吹さんの決勝ゴールで優勝を飾りました。勢いをそのままに、チームの最終目標「全国高校サッカー選手権大会出場」をかけた福岡大会で順調に決勝へと駒を進めます。

そして迎えた決勝戦、相手は九国大付属最大のライバル、東福岡高校。舞台は「アビスパ福岡」の本拠地で田吹さんが長年憧れた舞台「ベスト電器スタジアム」。試合は序盤から激しい攻防が続きます。田吹さんは持ち前のスピードあるドリブルで縦の突破を試みますが、東福岡の強力な守備に阻まれます。お互い一点も譲らない攻防が続き、試合時間は残り1分。一瞬の隙を狙った東福岡のシュートが九国大付属のゴールネットを揺らし、無常にも試合終了のホイッスルが場内に鳴り響いたのでした。

翼

最弱から最強へ
日本サッカー界の最高峰Jリーグを目指し、日々サッカーと向き合う田吹光翼さん。毎年冬を熱くする「全国高校サッカー選手権大会」の福岡県予選大会で準優勝を成し遂げました。高校3年最後の冬に至る軌跡、そして、田吹さんの眼前に広がる未来に迫ります。

謙虚にひたむきに
夢を掴みとります!!

「再び、あのピッチへ」
新たな夢へキックオフ
「全国へ行けなかったのは残念ですが、プロへの道はまだまだ序盤。大学でもサッカーを極めていきたい」と悔しさをバネに前を向く田吹さん。2、3年時の担任兼サッカー部の梶川コーチも「田吹だけの武器を磨いてほしい」とエールを送ります。「プロとしてあのピッチに帰ってきます」と新たな決意を固めた田吹さん。夢という光る翼を胸に、プロサッカー選手を目指して次のステージへと羽ばたきます――

決勝戦で「ベスト電器スタジアム」のピッチに立つ九国大付属。背番号11が田吹さん。



History of Tsubasa Tabuki

田吹光翼さんが今まで歩んできた人生のターニングポイントをピックアップ。輝かしい戦績と一緒にこれまでの軌跡を振り返ります。

2002年4月29日

アジア初のFIFAワールドカップが日韓共同で開催された年に生まれた田吹さん。小1から「金田少年サッカークラブ」に入会。



「日本代表のユニフォーム姿の田吹さん。意気揚々と弟と遊ぶ姿」。

2015年

中学進学後は、県内ではその名を知られる「川崎FC」に入団。アビスパ福岡公式スクールへも通いながら技術を磨いた。



「堺整形外科リハビリセンター」で練習したサッカー選手権大会出場したチーム」。

2018年

サッカーの強豪校「九州国際大学付属高等学校」に進学。史上最弱と言われながらも「最強」になるための練習に明け暮れた。



「高1の選手だけが出場する球技部」の対東福岡戦」。

2020年11月15日

高2の冬にレギュラー入りし、新人戦では飯塚高校を破って念願の優勝。最後の全国高校サッカー選手権では、東福岡高校に「1-0」で惜敗し、準優勝に輝く。



「最後の公式戦を勝利で飾り、監督に史无前例の敬意を払った田吹さん」。

to be continued...